

TAKE
FREE

ご自由にお取りください

輪

生きるをささえる

vol.
102

2026.8

「特集」

内視鏡のいま

内視鏡はここまで来た。

管理栄養士に
聞く！

今月の健康

Q&A

夏の暑さに向き合う
ヒントをお話します。

栄養管理課

係長 大山 愛子
(おおやま あいこ)Q
uestion1夏バテ予防に効果的な
栄養素は何ですか？

A.夏バテ予防には、水分・電解質を十分に補給し、たんぱく質とビタミンB1を含む食事で体力とエネルギー代謝を維持することが重要です。

Q
uestion2暑くて食欲がないときでも
栄養を取れる
食事の工夫はありますか？

A.暑くて食欲がない時は、冷たくて食べやすい料理を活用しながら、たんぱく質やビタミンB群と一緒に摂るのがポイントです。例えば、そうめんや納豆、ツナなどを加えると栄養バランスが良くなります。また、魚や豆腐、ごま、味噌などを使った冷たい宮崎県の郷土料理「冷や汁」もおすすめです。食べやすいものを上手に活用しながら、こまめに栄養を摂るよう心がけましょう。

Q
uestion31日にどのくらい水分を
摂るのが目安ですか？

A.水分摂取の目安は、1日あたり2～2.5Lです。ただし、日本人の場合はその約半分を食事から摂取しているため、飲み物としては1～1.5L程度を目安に補給しましょう。のどが渴いてからではなく、渴きを感じる前にこまめに飲むことが大切です。また、屋外での活動や運動時は発汗量が増えるため、汗の量に応じて追加で水分を補給しましょう。



標榜診療科一覧

内科	呼吸器内科	小児科	肛門外科	整形外科	小児外科	放射線科
肝臓内科	消化器内科	外科	肝臓外科	形成外科	皮膚科	病理診断科
血液内科	循環器内科	消化器外科	胆のう外科	リハビリテーション科	泌尿器科	救急科
感染症内科	腫瘍内科	乳腺外科	痔臓外科	脳神経外科	産婦人科	麻酔科
心療内科	内分泌・糖尿病内科	内分泌外科	食道外科	呼吸器外科	眼科	歯科
精神科	緩和ケア内科	大腸外科	胃腸外科	心臓血管外科	耳鼻咽喉科	

基本理念

わたしたちは公共的使命を自覚し心のこもった最高最良の医療を提供します

基本方針

1. 患者さんの権利 個人情報保護し 患者さんの立場に立った医療を行います
2. 十分な説明と同意による信頼関係のもとに 患者さんが満足できる医療を行います
3. 安心かつ安らぎが得られる質の高い医療をめざし 安全管理を徹底します
4. 常に研鑽して最高水準の医療知識・技術を習得し あわせて温かい心を持つ医療人をめざします
5. 地域における役割を自覚し 地域の医療機関とともにその責務を果たします
6. 合理的かつ効率的な病院経営に努めます
7. 職員が誇りを持ち、安心して働ける職場環境をつくります

編集後記

広報誌「輪」編集長 沼口 宏太郎

先般発生した熊本地震により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興と、皆さまが平穏な日常を取り戻されることを心よりお祈り申し上げます。

また、福岡でも酷暑日が報じられるなど、厳しい暑さが続く季節となりました。皆さまにおかれましては、熱中症対策を心がけ、どうぞご自愛ください。

私たちが地域に寄り添う医療を大切にしながら、皆さまに安心していただける医療の提供に努めてまいります。

輪 vol.102

発行日：2026年8月1日



地方独立行政法人 北九州市立病院機構

北九州市立医療センター

〒802-8561 北九州市小倉北区馬借二丁目1番1号

TEL.093-541-1831 (代表) FAX.093-533-8693

外来予約センター 093-533-8640

[月～金 9:00～16:30]紹介状または二次検診初診受付

ホームページ <https://www.kitakyu-cho.jp/center/>

ホームページ



Facebook



Instagram



X

※本紙では撮影用にマスクを外しています。

特集1 内視鏡のいま

内視鏡は ここまで来た。

日本で生まれた一本のカメラが、いま、おなかを切らずにがんを治しています。2026年7月11日、市民公開講座「内視鏡医になってみよう!」を開催しました。



▲市民公開講座の冒頭、消化器内科主任部長・隅田頼信による講演。会場には46名の市民の皆さまが集まった。

当日Report

市民公開講座「内視鏡医になってみよう!」：2026年7月11日(土)

あなたが内視鏡医になった、2時間。

46名の市民が「受ける側」から「操作する側」へ。6つのブースをめぐった体験の記録です。

46名
参加者

14名
うちお子さん

6チーム
1チーム8名

6ブース
体験5+説明1

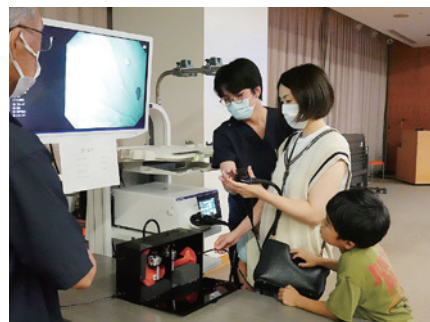
25分×1
巡回サイクル



▲画面を見ながらハンドルを回す。内視鏡が思うように動かず、会場で声が上がった。

講演のあとは、6つのチームに分かれてのブース巡回です。25分ごとに全チームが一斉に移動し、2時間で内視鏡のいまを一巡りました。ここからは、各ブースで何が「すごい」のか、そしてその場で何が起きていたのかを、あわせてご紹介します。

B1 胃カメラ・鼻からの内視鏡



鉛筆より、細い。

鼻から入れる内視鏡は直径およそ5ミリ。鉛筆より細く、やわらかい素材でできています。舌の付け根に触れにくい「オエッ」となる反射が起こりにくく、検査中に医師と会話することもできます。

当日は、実物を手にした方から「思ったよりやわらかい」との声がありました。ところが画面を見ながら動かそうとすると、これが進みません。ハンドルを回しても、思った方向に曲がってくれません。

細かい調整や手の動かし方が難しいなと思いました。
40代・女性・八幡東区

B2 大腸カメラ



曲がりくねった道を、進んでいく。

大腸は約1.5メートル。しかも何度も折れ曲がっています。その道を、先端をたわめながら奥へ進める——内視鏡のなかでも操作の難しい検査です。見つけたポリープをその場で取ることができ、検査がそのまま予防になります。

当日は、模型のカーブに差ししかかったところで、多くの方の手が止まりました。「まっすぐ押しても進まない」。医師が横から、「引きながら、少し回してみてください。」と声をかけます。

大腸のカーブに入れていく手技や病変を焼き切る手技など、改めて従事される先生方のごさを感じました。
40代・女性・八幡東区

B3 拡大・特殊光



光を変えると、浮かび上がる。

通常の光のほかに、特殊な光を当てる技術があります。ボタンひとつで切りかえると、周囲となじんでいた部分が、色の違いとしてくっきり現れます。拡大機能を使えば、粘膜の模様や細い血管の一本一本まで観察できます。

当日、このブースでいちばん多く聞こえたのは、「あっ」という短い声でした。参加者が自分の指でボタンを押し、画面の色が切りかわった瞬間です。

初めて内視鏡を見て、触ることができ、感動しました。
40代・女性・戸畑区

✓1950年、世界初の胃カメラは日本で生まれた

小さなカメラをゴム管の先につけ、胃の中で手さぐりのままシャッターを切る。撮った写真は、体から取り出して現像するまで、何が写っているのかわかりません。それでもこれは、医療にとって大きな一歩でした。日本の医師と技術者が力を合わせて生み出した、世界で初めての胃カメラです。

✓「撮る」から「見る」へ

やがて、細いガラス繊維の束で光を運ぶ技術が生まれ、医師はのぞきながら、その場で胃の中を見られるようになりました。さらに先端に小型カメラを組み込んだ電子内視鏡が登場すると、映像はテレビ画面に映し出されるようになります。医師が一人でのぞき込んでいた画面を、看護師も、そして患者さんご本人も、一緒に見られるようになったのです。

●1950

世界初の胃カメラ

日本で誕生。現像するまで何が写ったかわからなかった

●1960s

ファイバースコープ

ガラス繊維で光を運び、その場で「見る」ことが可能に

●1980s

電子内視鏡

映像がテレビ画面へ。患者さんも一緒に見られるように

●2000s

ハイビジョン・特殊光

粘膜の微細な毛様、毛細血管の一本まで見える

●2010s～

内視鏡治療・AI

切らずに治す。コンピューターが見のがしを防ぐ

「日本で初めて開発されたことを知りました。AIで病変を見つけられるようになっていくことが、すごいなと思いました。」

40代・女性・八幡東区

早く見つけることが、いちばんの治療です。

体験を終えた方の多くが、こうおっしゃいました。「思っていたより、こわくなかった」。
私たちがこの日いちばんお伝えしたかったのは、まさにそこです。

✓日本人に多い3つのがんは、いずれも内視鏡で見つけられます

胃がん

胃カメラで発見。早期なら内視鏡だけで治療できることが多い

大腸がん

検査中に見つけたポリープを
その場で切除でき、予防にもなる

食道がん

特殊な光を使うことで、
ごく早い段階の病変を見つけやすい

✓症状が出てからでは、遅いことがあります

「痛くないから大丈夫」「調子が悪くないから受けなくていい」。よくうかがう言葉です。しかし、これらのがんは初期にはほとんど症状がありません。痛みや出血、体重が減るといった症状が出るころには、すでに進行していることが少なくないのです。だからこそ、なんともないうちに受けることに意味があります。

早く
見つかった
場合

- ▶内視鏡だけで切除できることが多い
- ▶おなかを切りません
- ▶胃や大腸をそのまま残せます
- ▶入院は短期間で済みます

進行して
見つかった
場合

- ▶手術や薬物療法が必要になります
- ▶切開が必要になることが多くなります
- ▶臓器の一部を切除することがあります
- ▶入院が長期になることもあります

「萎縮性胃炎があり、毎年検査をと言われていますが、カメラが苦痛で先延ばししているので、最新の胃カメラに興味がありました。」

40代・女性・八幡東区

こうした方にこそ、知っていただきたいと思っています。鼻から入れる細い内視鏡、眠っているあいだに終わる方法など、つらさを減らす選択肢は確実に増えました。「前に受けてつらかったから」で止まっている方は、どうか一度ご相談ください。やり方は、あのころとは違います。

最新の内視鏡で、 最良の検査と治療を。

北九州市立医療センター消化器内科は、最新の内視鏡機器と技術を用いて、地域の皆さまに最良の検査と治療を提供します。

「こわいから受けない」ではなく、「安心して受けられる」検査へ。この日、46名の皆さまが実際に手を動かして確かめてくださったことを、これからは診療の場でお返ししてまいります。皆さまが健やかに過ごされることが、私たちのいちばんの願いです。

北九州市立病院機構
北九州市立医療センター 消化器内科
主任部長 隅田 頼信

機器ご提供・ご協力

オリンパス株式会社／富士フイルムメディカル株式会社

お問い合わせ

北九州市立病院機構 北九州市立医療センター 消化器内科
〒802-8561 北九州市小倉北区馬借2-1-1

B4 AI(人工知能)



「ここにいるよ」と教えてくれる。

映像をAIがその場で解析し、気をつけるべき場所を枠で囲んで知らせます。医師の目と、コンピューターの目。その両方で見ること、見のがしをさらに減らすことができます。

当日は、画面に四角い枠がぱっと現れると、お子さんたちが身を乗り出しました。アンケートでもっとも多く名前が挙がったのが、このブースです。

AIがポリープを見つけるところが一番楽しかったです。
10代・男性・八幡東区

B5 内視鏡治療



おなかを切らずに、取りきる。

早い段階で見つかったがんは、内視鏡の先から出した細い器具で、粘膜の下からはがすようにして切り取れます。おなかを切らず、胃や大腸をそのまま残せる治療です。ミリ単位の操作を積み重ねていきます。

当日は、このブースの前だけ、空気が違いました。模擬の臓器に器具を進める間、誰も声を出しません。少しずつ、少しずつ、はがれていきます。

特に、電気を使って病変を切り取るブースは、ワクワクしました。
60代・女性・門司区

B6 腸のおそうじ薬



飲みやすさも、進歩している。

大腸の検査には、前日からの準備が必要です。「あれがつらくて」という声を、私たちは長年うかがってきました。実はこの薬も進歩しています。量が少なくすむもの、味が改良されたもの。選択肢が増えました。

当日は、看護師が実物を並べ、実際に味わっていただきました。「もっと大量に飲まされると思っていた」。検査そのものより前処置を不安に思っていた方が、多かったようです。

下剤を実際に飲んで良かったです。
50代・女性・小倉南区

✓診療室では聞けないことを、聞ける場所

会場には、消化器内科の医師のほか、看護師、臨床工学技士が立ちました。「この機械、いくらするんですか」「痛くないって本当?」「何歳から受けたらいいですか」——診療室ではなかなか出てこない率直な質問が、次々と飛び出します。私たちにとっても、学びの多い時間となりました。

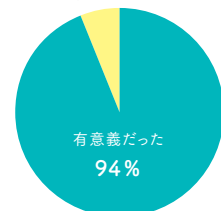
機器をご提供いただいたオリンパス株式会社、富士フイルムメディカル株式会社の皆さまにも各ブースにお立ちいただき、仕組みをわかりやすくご説明いただきました。

足のペダルや両手、全身を使って検査されていることに驚いた。

30代・女性・八幡東区

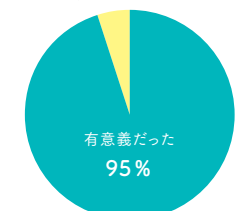
アンケート結果 「有意義だった」95%

講座①「知る」(講演)



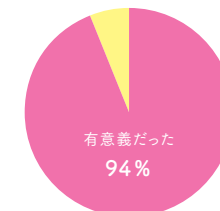
親子でとても楽しむことができました。ありがとうございました。
40代・女性・小倉北区

講座②「触れる」(体験)



体験により安心感が生まれた。
70代・男性・小倉北区

講座全体



もう一回体験してみたい。
10代・女性・戸畑区

※「そう思う」+「どちらかというと思う」の合計。無回答を含む全回答に対する割合。／
ご参加者の居住地は小倉北区・小倉南区・八幡東区・八幡西区・門司区・戸畑区・若松区のほか、直方市・豊前市からも越えいただきました。

無痛分娩 はじめました！

当院では、お母さんが少しでも安心して、穏やかな気持ちで赤ちゃんを迎えられるよう、2025年9月より無痛分娩を開始しました。

無痛分娩とは、麻酔を用いて陣痛の痛みをやわらげながらお産を進める方法です。

常勤の麻酔科専門医が、硬膜外麻酔や脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔による痛みの緩和を行い、産婦人科医・助産師と協力して、安全にお産を支えます。

総合周産期母子医療センターとしてNICU・MFCUを備え、母体と新生児の両方に対応できる体制を整えています。

これまで培ってきた経験とチームワークを活かし、お母さん一人ひとりに寄り添った出産のかたちを一緒に考えていきます。



■当院の無痛分娩の特徴

〈メリット〉

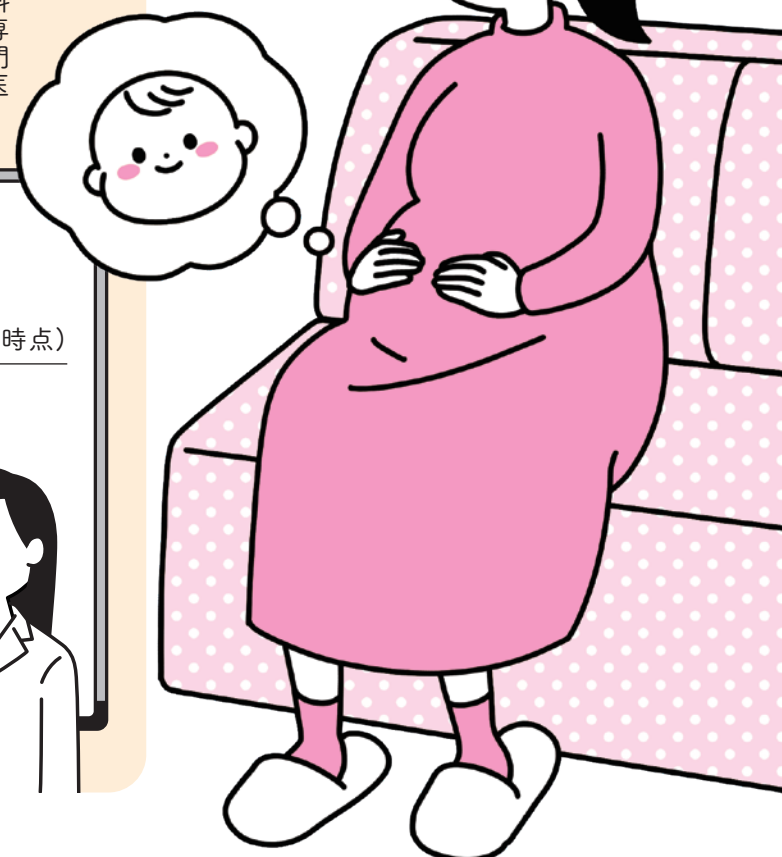
- ・安全のため、麻酔科専門医・産婦人科専門医・アドバンス助産師の連携のもと慎重に判断しています。
- ・麻酔により、痛みをやわらげることができ、産後の疲労を軽く感じる方が多いです。
- 〈デメリット〉
- ・麻酔による血圧の変化や発熱、頭痛をきたすことがあります。
- ・いきむ力が弱まるため、吸引分娩や帝王切開分娩を必要とする可能性があります。
- ・麻酔の効果には個人差があるため、完全に痛みが取れないこともあります。
- 〈知っておいてほしいこと〉
- ・腰部への注射が必要です。
- ・お産の進行や母体の状態によっては、実施できないこともあります。
- ・麻酔薬はお母さんの神経に直接作用するため、赤ちゃんへの影響はほとんどありません。

無痛分娩の対象

当院での無痛分娩は、以下の条件を全て満たす方が対象です。(2026年8月時点)

- ・当院で妊婦健診を受けている
- ・単胎妊娠、経産婦
- ・妊娠37週以降
- ・分娩当日までのBMI*が35未満
- ・主治医が許可している
- ・計画分娩に同意している
- ・限定された日に行うことを了承している(月に2~3日、1日1人のみ)

*BMI=身長(cm)÷{体重(kg)×体重(kg)}



スタッフよりメッセージ

麻酔科医 部長 岡田 久乃 (おかだ ひさの)

産科麻酔を専門的に研修した麻酔科専門医を中心に対応しています。お産の痛みを和らげ、お母さんと赤ちゃんが安心して出産に臨めるよう、チームで支えます。不安なことは、外来時にお尋ねください。

産婦人科医 部長 末永 美祐子 (すえなが みゆこ)

当院は、総合周産期母子医療センターであるため、基礎疾患や合併症のある方にも対応しています。また、緊急時の対応も行い、麻酔科、新生児科と協力し、母児ともに安全な無痛分娩を提供していきます。

助産師 副看護師長 天野 かおり (あまの かおり)

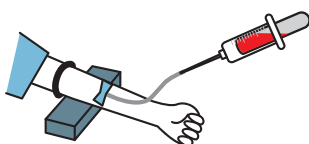
無痛分娩で痛みを和らげることは、冷静にお産に臨めるメリットがあります。大切なのは、お母さん自身の「産もう」とする主体性です。私たち助産師はその産む力を最大限に発揮できるよう一番近くでサポートします。

■無痛分娩の入院までの流れ

- ▶ 初診および妊婦健診時：無痛分娩の申し込み
担当医へ無痛分娩を希望することをお伝えください。
リーフレット、案内および申込書をお渡しします。



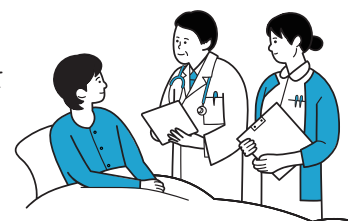
- ▶ 無痛分娩前検査(血液検査)を受ける



- ▶ 妊娠30-34週：無痛分娩外来の受診
検査結果をもとに麻酔科医・助産師より無痛分娩の方法や合併症について説明を受けます。



- ▶ 妊娠35-36週：入院の説明
入院前日に、患者支援センターにて入院の説明を受けます。



- ▶ 妊娠37週以降：入院

- ▶ 無痛分娩当日
産婦人科医が経過を観察し、適切なタイミングで麻酔を依頼します。
麻酔科医は、麻酔開始後、定期的に診察し、分娩の経過にあわせて麻酔を調整します。



よくある疑問に麻酔科医・産婦人科医・助産師が分かりやすく回答します。
安心してお産に臨むための情報をまとめました。

Question1 無痛分娩を希望しても、できないことはありますか？

麻酔科医 部長 岡田 久乃

A.はい。当院では38週頃の計画分娩を基本としています。予定より早く陣痛が始まった場合や、血の固まりやすさの異常がある場合、発熱がある場合は、無痛分娩を見合わせる場合があります。母児双方の安全を最優先に判断しています。



Question2 無痛分娩をすると、今回の分娩に影響はありますか？

産婦人科医 部長 末永 美祐子

- A.・帝王切開率は上昇しません
- ・吸引分娩率は、上昇するという報告と上昇しないという報告があります(上昇する場合は、リスクが1.4倍程度になります。)
 - ・分娩時間が長くなる場合があります



Question3 入院中の過ごし方で、注意点はありますか？

助産師 副看護師長 天野 かおり

A.特別な制限はありません。基本的には、ご自身のペースでリラックスしてお過ごしいただけます。強いて言えば、「お産に向けて心と体をしっかり整えること」が一番の「注意点」です。助産師が24時間いつでもサポートしますので、不安なことやご要望があれば、何でもお気軽に助産師へお声がけください。



「医療連携の会」を開催いたしました

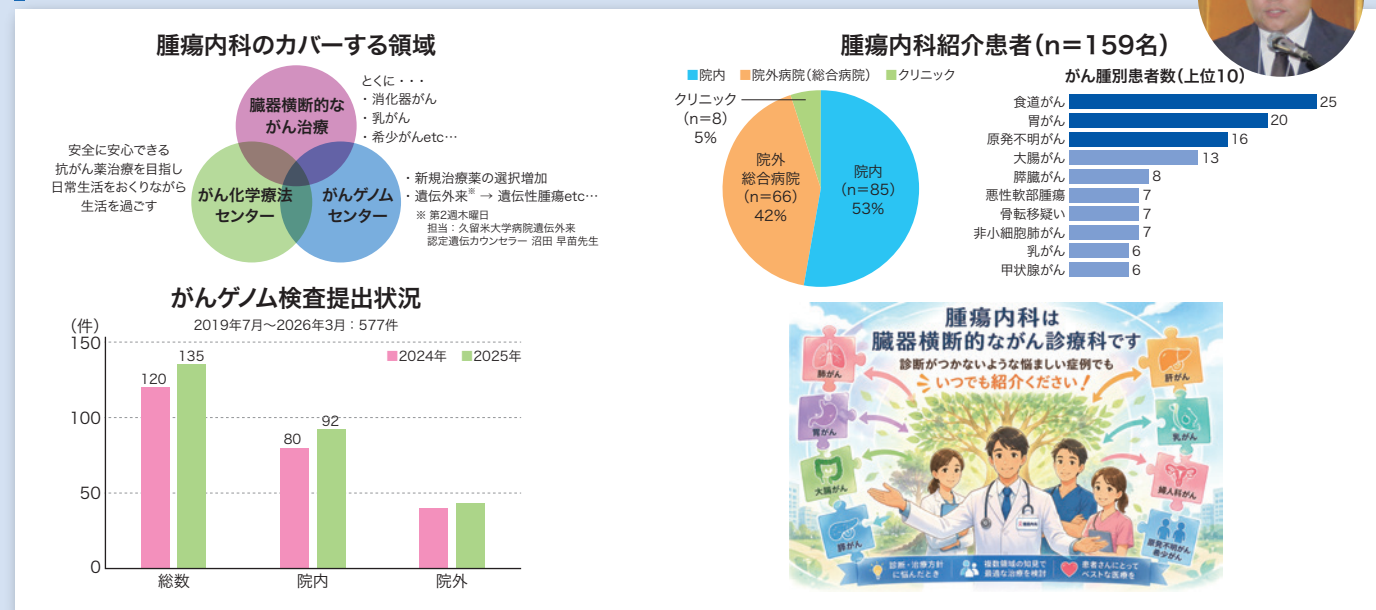
7月23日、リーガロイヤルホテル小倉において地域医療機関156施設333名の方にご参加いただき、「医療連携の会」を開催いたしました。

新任院長・副院長・統括部長・主任部長の挨拶と、診療科紹介として外来化学療法センター・がんゲノムセンター・腫瘍内科と整形外科の紹介をさせていただきました。

懇親会では、地域の医療従事者の皆さんと当院職員との活発な意見交換が行われ、皆さんと対面で「顔の見える」交流を図ることができました。

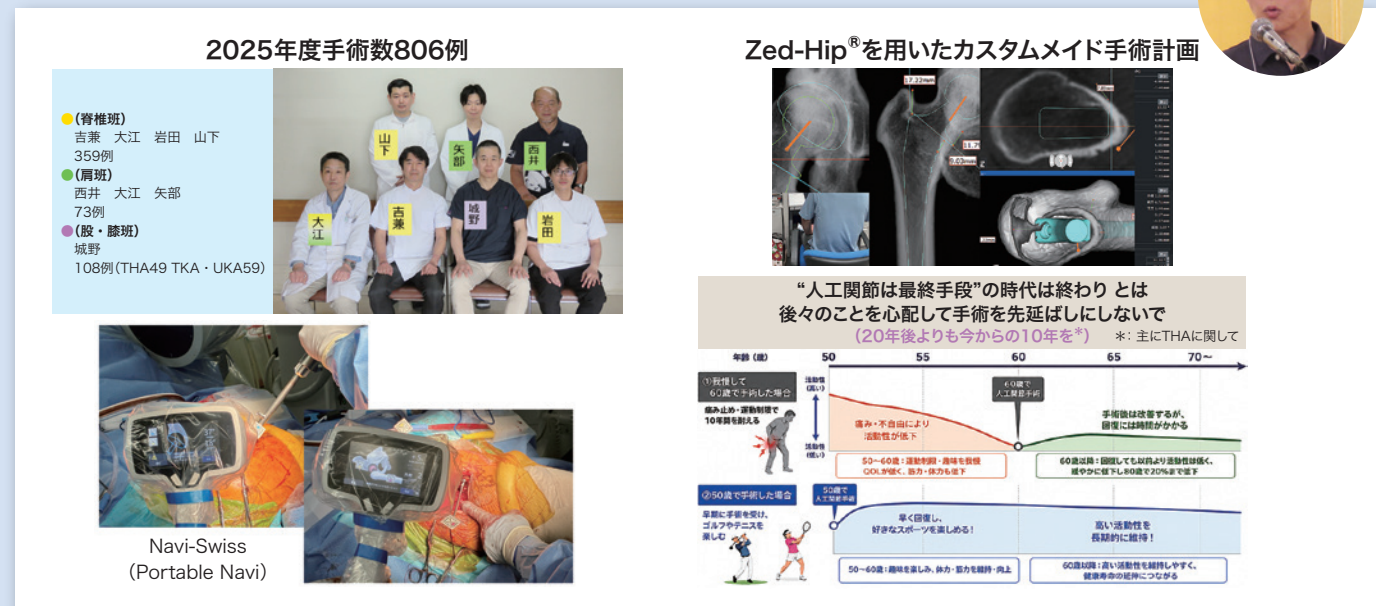
「外来化学療法センター・がんゲノムセンター・腫瘍内科」

腫瘍内科主任部長 佐藤 栄一



「整形外科」

整形外科主任部長 城野 修



大野院長が地域の救急医療連携のため消防機関訪問 年間の救急車受入れ件数2,000件の維持を目的に

令和8年5月に、大野院長が北九州市消防局の本部と7つの消防署を訪問し、岸本消防局長と森救急部長及び各消防署の署長並びに救急隊長の方々と意見交換を行い、当院の救急受入れ体制への理解と協力をお願いしました。

当院の救急車受入れ件数は、令和4年度2,143件、令和5年度2,436件、令和6年度2,746件、令和7年度2,402件と近年は、毎年度2,000件を維持しております。今後もこの件数を維持すべく、応需率の向上に向けて救急体制の構築に努力しているところです。

続いて、災害拠点病院としての重要ななかかわりのある消防航空隊を訪問し、航空隊の方々と災害時の搬送体制について意見交換を行いました。ちょうど、訪問数日前に小倉南区で発生した林野火災で消防ヘリコプター「きたきゅう」が使用した空中消火装置の説明をしていただきました。

当院では、地域の救急医療機関との連携を目的に、消防機関の

医療従事者に対する研修として、北九州市消防局の救急救命士の病院実習を毎年6名受け入れるとともに、近隣消防本部の救急救命士の気管挿管の実習を毎年1名受け入れております。

また、総務省消防庁で義務付けられている救急救命士再教育として年3回の研修会を開催しております。この研修会の受講対象者は、北九州地域メディカルコントロール協議会に属する6つの消防本部の救急救命士ですが、一般の救急隊員の方にも門戸を広げております。最近の内容では、救急隊員が日ごろ経験することの少ない小児疾患や出産時の新生児と母体の管理などに関する講義などの症例検討が高い評価を得ております。

患者さんやご家族が、北九州市立医療センターに任せたら安心と思われようような病院を目指します。

今後も北九州市及びその周辺地域の救急医療の一端を担い、地域医療に貢献してまいります。北九州市立医療センターをどうぞよろしく申し上げます。



北九州空港に併設された北九州市消防航空隊基地にて(令和8年5月22日)

ひまわりレディースクリニック小倉

北九州市小倉北区浅野2-14-2 リーガロイヤルホテル小倉 パレロイヤル1階 TEL:093-383-1800



診療科目

産婦人科

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	●	●	●	●	●	●	—
14:30~18:00	●	●	—	●	●	●	—

※休診日:日曜、祝日

※土曜日午後は14:30~17:00まで

いの え れい こ
院長 井上 令子 医師

当院について

小倉駅から徒歩3分の通いやすい立地で、思春期から妊娠・出産、更年期まで女性のライフステージに寄り添う診療を行っています。

特に、不妊治療には力を入れており、タイミング法から人工授精、体外受精まで幅広く対応しています。

地域の方へ、患者さんへのメッセージ

恥ずかしくて受診をためらっていた方、「こんなことを相談してもいいのかな」と迷っていた方も、どうぞ安心してお越しください。

女性の健康に関するさまざまな悩みに寄り添い、安心して前向きな一歩を踏み出せるよう、お手伝いします。

チーム医療、裏側の主役たち。



薬剤師

薬剤課

ます もと かな
増本 果奏

調剤室では処方内容の確認や調剤を行い、病棟では患者さんのそばで、安全に薬物療法を受けられるよう支援しています。

8:30 朝礼・情報収集

医薬品に関する情報などを共有します。また、入院患者さんの情報を把握し、準備を整えます。

9:00 退院指導

患者さんが退院後にご自宅で服用するお薬について説明を行い、不安なく治療が続けられるように支援します。

10:00 持参薬調査・入院初回面談

新たに入院された患者さんの薬の内容や、アレルギー歴等について確認します。治療を安全かつ円滑に進めるために欠かせない、スタッフとの大切な情報共有になります。



12:00 お昼休憩

13:00 薬剤指導・副作用管理



入院患者さんへの薬の説明や副作用の確認のため、病室に伺います。患者さんのお顔や状態を見ながら、薬に対する不安や質問にお答えしたり、気になる症状がないかお話を伺ったりします。

16:00 退院準備

翌日に退院される患者さんがお持ち帰りになるお薬を確認し、説明書やお薬手帳の準備・作成を行います。

17:00 業務終了



こんなことも聞いてみました！

Q1. 仕事をするうえで大切にしていることは何ですか？

A. 一人ひとりの患者さんに適したお薬を提供するため、医師の処方意図を正確に理解し、患者さんが安心して安全に使用できるよう努めることです。

Q2. 一緒に働く仲間の魅力は何ですか？

A. 大切な情報をこぼさないように、コミュニケーションをしっかりとっているところです。それぞれ異なる視点で患者さんに関わる多職種の意見や情報にしっかり耳を傾け、連携することで、患者さん一人ひとりにより良い医療を提供できるよう努めています。



医療の現場でどんな1日を過ごしているのか、仕事で大切にしていることや今後の目標をインタビュー。今回は、診療支援部編！薬剤課とリハビリテーション技術課の一日をのぞき見。患者さんに向き合う姿勢や、現場の工夫、スタッフのあたたかさをお届けします。



作業療法士

リハビリテーション技術課

か とう いろ は
加藤 彩花

患者さん一人ひとりの状態に合わせた練習を行い、日常生活動作の改善や心身機能の回復、自宅や社会への復帰を支援しています。

7:40 情報収集・リハビリ内容の立案

患者さんの状態や治療内容に変化がないか確認し、その日の目標に沿ったリハビリ内容を立案します。訪室後も状況に応じて柔軟に調整し実施します。



8:15 担当決め・朝礼

入院患者さんの担当を決定し、リハビリスタッフ全員で情報共有を行ってから業務を開始します。

8:30 午前のリハビリ開始

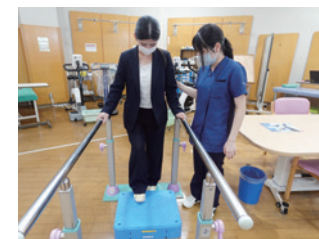
患者さんとのコミュニケーションを大切にしながら、身体機能だけでなく日常生活動作の改善やその人らしい生活が送れるようになることを目標にリハビリを実施します。できることが増え、笑顔が見られる瞬間がやりがいです。

12:00 昼食・情報共有

昼食後は、理学療法士や言語聴覚士と患者さんの情報を共有し、より良い支援に繋がります。

13:00 午後のリハビリ開始

午前中との変化を確認しながらリハビリを実施します。患者業務だけでなく、多職種カンファレンスにも参加し情報共有を行っています。



16:00 記録・環境整備

その日、実施したリハビリ内容や患者さんの様子を記録し、翌日の準備や環境整備を行います。

17:05 業務終了



こんなことも聞いてみました！

Q1. 仕事をする上で大切にしていることは何ですか？

A. 患者さんの気持ちに寄り添い、安心してリハビリに取り組める関係づくりを大切にしています。身体機能回復だけでなく、不安や悩みにも耳を傾け患者さんの「出来るようになりたい」という思いを実現できるよう全力でサポートしています。

Q2. 今後挑戦したいことや目標はありますか？

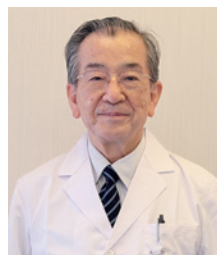
A. 患者さんから信頼される作業療法士を目指しています。そのために幅広い知識や技術を身に付け、一人ひとりに最適なリハビリを提供できるよう日々学び続けていきたいです。

医療法人社団 明愛会 小倉南メディカルケア病院

〒800-0206
福岡県北九州市小倉南区葛原東2-14-2
TEL:093-473-1010

診療科目

内科・小児科・リハビリテーション科・漢方内科

くぼ た まさ ゆ き
院長 窪田 正幸 医師

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	●	●	●	●	●	●	—
13:30~17:00	●	●	●	●	●	—	—

※土曜日の診療は午前中のみです。祝日は休診です。
小児科、漢方内科は水・木曜日は午前中のみです。

連携病院のご紹介

当院について

当院は慢性期療養型病院で、急性期から慢性期医療に移行される患者様や、在宅復帰を目指し療養ケアや運動リハビリが必要な患者様の入院医療を担当しております。担当疾患は脳血管障害、呼吸器疾患、心不全、腎不全、肝不全、悪性腫瘍、難病疾患など多岐にわたり、在宅患者様の迅速な受け入れも行っています。人工呼吸器や腹膜透析管理だけでなく、急性の呼吸障害にも対応できる体制を整え、少数ですが小児の短期療養ケア入院も受け入れています。

地域の方、患者さんへメッセージ

入院される患者様や御家族様に御満足いただける質の高い地域医療を目指して、スタッフ一同鋭意努力しております。接遇の向上、医療安全対策、在宅復帰支援、運動リハビリにも力を入れております。褥瘡管理、経管栄養、中心静脈カテーテル留置、腹腔や胸腔穿刺なども日常業務として施行しています。感染症対策の一環として発熱外来を開設し、漢方外来も開設しています。入院患者様は歯科治療や皮膚科診療も受けることができます。